

全学モジュール科目案内

テーマ名	16 安全で安心できる社会		
テーマ責任者	林 秀千人	責任部局	全ての学部
対象学部	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
趣 旨	<p>今日、テロ、医療事故、自然災害、原子力、メディア・スクラム、モラル・ハザード等々、日常を取り巻く危険や不安が私たちの回りには蔓延しています。このような危険や不安に、どのように対処していけばいいのか、何をなすべきか、どう考えるべきか、そして何をしたらいけないのかについて学び、危険や不安のない安全・安心な社会の構築に貢献しうる知識と理解を涵養することを目的としています。</p> <p>安全・安心な社会を構築するためには、目指すべき安全で安心できる社会のイメージを明確にすることが必要です。安全は危険や事故に遭遇したときに意識するもので、普通の状態ではつい見逃してしまうものですが、一方で、普段の取り組みが重要となります。</p> <p>本授業では、そもそも、安全とは何か、安心とは何かについて、「人の生存を脅かす問題からの安全・安心(健康と医療の安全・安心)」、「人為的な脅威からの安全・安心(リスク社会と社会科学)」、「災害・事故からの社会システムの安全・安心(科学と技術の安全・安心)」の観点から検討し、安全は与えられるものではなく、自ら努力をして維持することが重要であることを認識するとともに、日常意識をどのように保てばいいのか、自らが考えることで安全・安心が実現できることを理解を深めることを教育目標としています。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の維持と医療とのかかわりを正しく理解し、説明できる: 科目 I a「健康と医療の安全・安心」 ・リスク社会の不安や不確実性の克服に社会科学がどのように応え、応えようとしているかを、経済、経営、法の側面から理解できる: 科目 I b「リスク社会と社会科学」 ・科学技術の発展の産物であるシステムの中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得し、説明することができる: 科目 I c「科学と技術の安全・安心」 ・関心をもった安全・安心領域(健康・医療、社会科学、科学と技術)の知識と技能を活用できる: 科目 II a～II f ・教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす(全学モジュール共通目標) ・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける(全学モジュール共通目標) 		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>2011.3.11 東北地方太平洋沖地震による未曾有の東日本大震災では、「想定外」という言葉を何度となく聞き及び、政治も経済も科学技術も全く役に立たず、最後は音楽、文学、宗教が生き抜く力となったことをまざまざと感じました。地球上で起こっているテロ、医療事故、自然災害、原子力、メディア・スクラム、モラル・ハザード等の危険や不安を想定し、それに対処できる、あるいは、そのような危険や不安を払拭し、安全で安心できる社会の構築が私たちの使命ではないかと思えます。安全で安心できる社会について、学生と教員とともに考えていきましょう。</p>		

	科目名	担当者名	概 要	キーワード
モジュールⅠ	健康と医療の安全・安心	中山守雄 江藤 宏美 小守 壽文 木住野 達也	健康を維持するために日ごろ意識することが何か、医療とのかかわりを正しく理解するために必要な考え方を身につける。また、健康で安心した生活を送るために医療はどのようなかかわりを果たすのかを自ら考え、取り組む意識を育てる。	家族、女性、子供、遺伝、遺伝子組換え、副作用、薬害
	リスク社会と社会科学	森保 洋	産業社会の進展による生活水準の上昇の一方で進行したリスク社会の不安や不確実性の克服に社会科学がどのように応え、応えようとしているかを経済、経営、法の側面から照射し、学問の現段階を理解する。	証券市場・金融リスク管理・金融工学・確率論・統計学
	科学と技術の安全・安心	林 秀千人 高橋 和雄 田中 俊幸 久保 隆	人間が安全で快適な生活を送るために、科学技術の発展が図られてきた。一方で、個人などでは処理できないさまざまなシステムが働いている。その中で、安全を維持し安心を図るために必要な基本的な考え方を習得するとともに、組織の中で個人が取り組む安全・安心の意識を育てる。	科学技術の安全、システムの安全と安心、安全文化と安心
モジュールⅡ	危機管理の考え方	新任教員	危機をリスクと事態に分け、それぞれの特徴を知り、その応用について具体的に理解する。また危機管理における論点の中から人権を取り上げる。「自己」、「家族」、「地域」の安全を以て安心を図り 社会が「想定外」を克服する仕組みについて考えたい。	事態管理、リスク管理、人権

医療介護現場の安全と安心	松坂 誠應 佐々木 規子 梅田 正博 長井 一浩 浦松 正	実際の医療や介護の現場での取り組みを通して、人の生存や生活を脅かす問題やその対策を自ら考え、WHOが定義した健康(身体的健康、心理的健康、社会的健康、霊的健康)を理解する。ここでは、頻度の高い高度医療、遺伝病、誤嚥性肺炎と口腔ケア、医療過誤対策、介護負担と虐待などをテーマとする。	高度医療、医療過誤、遺伝病、口腔ケア、介護、虐待
社会科学からみた安全・安心	宇都宮 譲	国際関係、政府、情報、金融、法、企業と産業、消費、勤労等経済社会の各局面で現代社会のリスクに対する脆弱さを克服するために何をなし得るのかの解決法をLTDなどの新しい授業方法等を通して考えていくことで、経済学、経営学、法学の思考法からリスク、不安、安全、安心を考えていく。	労働災害 社会保障 法令遵守 人口爆発 国際競争
工学から見た安全安心(エネルギーと資源)	金丸 邦康 桃木 悟 山口 朝彦	東日本大震災後の日本のエネルギーのあり方を考えるために、IPCCの報告書をめぐる環境問題の捉えかた、日本のエネルギー事情、資源(食料、化石燃料、レアメタル、鉄など)の今後、国民生活とエネルギー需給を、安全の問題を踏まえてテーマとする。	環境問題 化石燃料 原子力 エネルギーの質 食料生産
公害環境問題と社会	戸田 清	水俣病、カネミ油症、原発事故、遺伝子組み換え作物などを例として、公害・環境問題における政府、企業、学者、市民などがこれまでどのように対応してきたかを振り返り、これからの社会におけるリスク、不安、安全、安心を考えていく。環境社会学、生物学などの視点からみていきたい。	公害病 認定基準 安全神話 予防原則 情報公開

全学モジュールの目標 キーワード、および授業 編成の視点との対応	技能・表現						知識・理解			態度・志向性				※授業編成の視点			
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	A	B	C	D
	自主的探究	批判的思考	自己表現	行動力	日本語コミュニケーション力	英語コミュニケーション力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	社会貢献意欲	学問を尊敬する態度	自己成長志向	相互啓発志向	哲学的な切り口	歴史・略史を扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
健康と医療の安全・安心	○	◎					○			○					○	○	
リスク社会と社会科学	○	◎	◎		○		◎			◎	◎	○		○	○	◎	◎
科学と技術の安全・安心	○	◎	◎		○		◎		◎	○	○	◎	○			○	○
危機管理の考え方	◎	◎	○	○	○		◎			◎	○		◎	○	○	◎	
医療現場の安全と安心	◎	○			○		○				○					◎	○
社会科学からみた安全・安心		◎			◎	○	◎		○		○				◎	◎	
工学から見た安全安心(エネルギーと資源)	○	◎					◎	○		○	○				○	◎	
公害環境問題と社会	○	◎						◎		○	○					◎	○
◎(特に重視)の数	2	7	2	0	1	0	5	1	1	2	1	1	1	0	1	6	1
○(重視)の数。	5	1	1	1	4	1	2	1	1	4	6	1	1	2	4	2	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目